

札幌市子どもの生活実態調査報告書 概要版

調査の概要

札幌市の子どもの貧困に関する実態を把握したうえで、困難を抱える子ども及び世帯の状況から子どもの貧困に関する現状や課題を分析し、「札幌市子どもの貧困対策計画」の改定のための基礎資料とすることを目的に、

- ①市民アンケート
- ②支援者ヒアリング
- ③座談会

の3つの方法により調査を実施した。

① 市民アンケートの実施概要

【目的】

子どもやその世帯の家庭生活・教育・就労等に関する実態をライフステージに分けて把握することで、本市における子どもの現状をより詳細に把握する。

【調査対象】 約10,000世帯

- ・2歳児、5歳児、小2、小5、中2、高2の保護者(約10,000人)
- ・小5、中2、高2の子ども(約4,500人)

【実施方法】 無記名によるアンケート調査

- ・2歳児世帯: 調査票を郵送し返信用封筒及びWEBで回収。
- ・5歳児、小2、小5、中2及び高2の世帯には、幼稚園、保育園、学校を通じて調査票を配布・回収。

【実施期間】 令和3年10月20日(水)～11月12日(金)

【回答数(回収率)】

保護者: 7,282件(73.2%)、子ども3,513件(79.4%)
合計(保護者＋子ども): 10,795件(75.1%)

② 支援者ヒアリングの実施概要

【目的】

支援を必要とする状態にある子どもやその家庭の生活像等について、支援する側からの意見を把握することで、計画策定のための基礎資料とするほか、必要な支援等の検討資料とする。

【調査対象】

子どもの成長・発達の段階において関わりが深い支援機関・団体等（児童福祉施設、学校関係者、民間の支援団体、福祉関連部署の市職員等）28機関・団体。

【実施方法】

担当職員が施設（担当部署）を訪問し、実際に支援に携わる方からインタビュー形式で聞き取りを行った。

【実施期間】

令和3年7月～令和3年11月

③ 座談会の実施概要

【目的】

市民アンケートや支援者ヒアリングだけでは把握しにくい、若者が抱えている困難な状況や今後必要と考えられる支援を、直接把握する。

【実施対象】

児童養護施設退所者、生活保護受給世帯・ひとり親世帯で成育した10代後半～30代前半の若者（不登校、引きこもり、ヤングケアラー等の経験もあり。）

【実施方法】

ファシリテーター役と担当職員が施設等を訪問し、調査対象のグループごとに座談会形式にて実施。1回あたり1～2時間程度で2回実施（参加者：合計9人）。

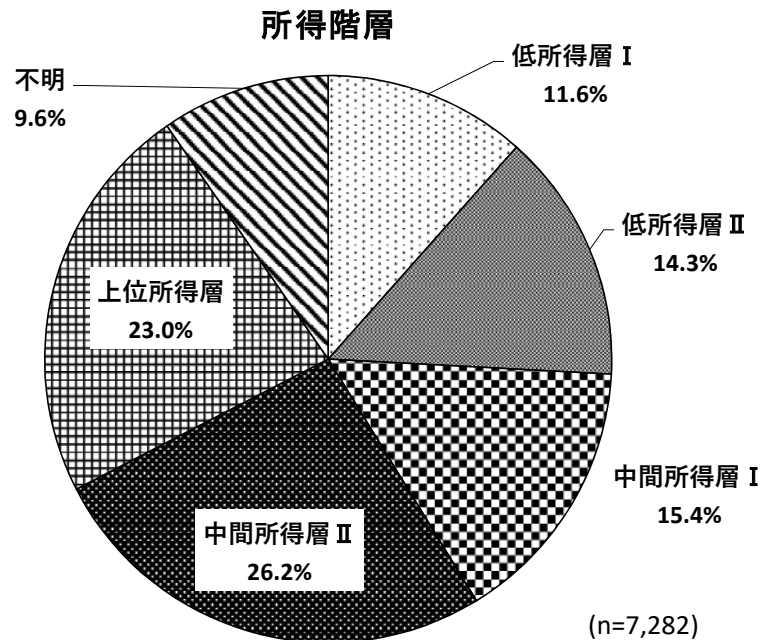
【実施時期】

令和4年4月

市民アンケート実施結果 概要

調査回答世帯の所得階層の分布について

- 調査回答世帯の所得階層の分布は、下図のとおりであり、中間所得層Ⅱが26.2%と最も多かった。
- 低所得層Ⅰは11.6%、低所得層Ⅱは14.3%であった。



※「不明」には、無回答のほか、回答の判別がつかないものを含んでいる。以下のページにおいても同じ。

所得階層区分について

同じ所得でも世帯人数によって、生活水準が変わるため、世帯人数による調整を行った「相対的貧困線※」を基準とした階層区分を用いている。

※等価可処分所得の中央値の2分の1の金額(127万円)。国民生活基礎調査(2019年)のデータを用いている。

階層区分の名称	所得が相対的貧困線の何倍であるか	所得
低所得層Ⅰ	1.0倍未満の世帯	低
低所得層Ⅱ	1.0～1.4倍未満の世帯	↓
中間所得層Ⅰ	1.4～1.8倍未満の世帯	
中間所得層Ⅱ	1.8～2.5倍未満の世帯	
上位所得層	2.5倍以上の世帯	高

※国の子どもの貧困率等のもととなる国民生活基礎調査では、税や保険料などの詳細な調査により可処分所得を把握しているが、本アンケート調査では、年間収入から可処分所得を推計しており、調査・集計方法が異なるため単純な比較はできない。

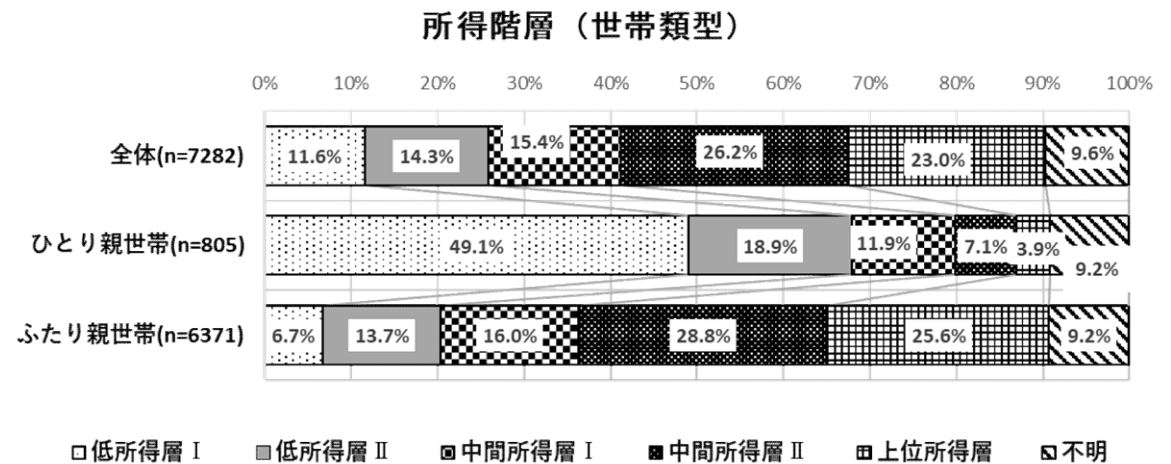
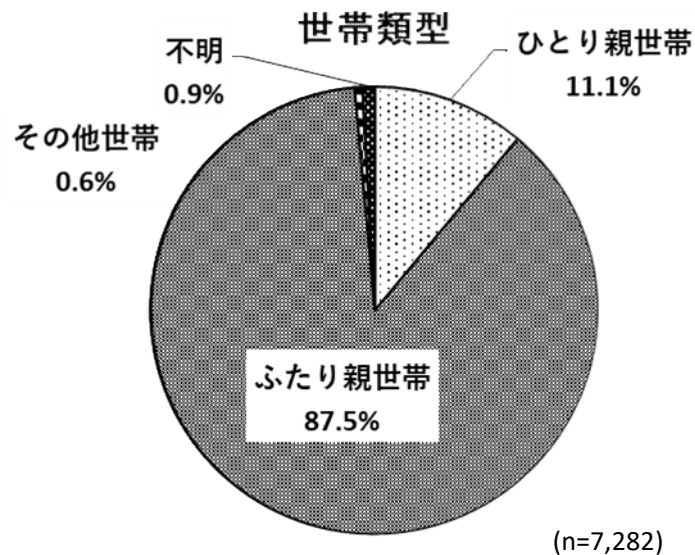
市民アンケート実施結果 概要

調査回答世帯の世帯類型について

- 世帯類型別にみると、回答者のうち、ひとり親世帯は11.1%、ふたり親世帯は87.5%であった。
- ひとり親世帯の49.1%が低所得層Ⅰであり、ふたり親世帯の6.7%と比較し、所得がより低い方に分布している。

※「家族に含まれる人の組み合わせ」

- ①「ひとり親世帯」:「母＋子」、「母＋子＋祖父母（祖父のみ、祖母のみの場合を含む。以下同様）」、「父＋子」、「父＋子＋祖父母」
- ②「ふたり親世帯」:「父＋母＋子」、「父＋母＋子＋祖父母」



※ひとり親世帯とふたり親世帯の母数(回答世帯数)には8倍近い開きがある。

また、実数で見ると、低所得層Ⅰに含まれる世帯数はふたり親世帯(426世帯)の方が、ひとり親世帯(395世帯)をやや上回っている。

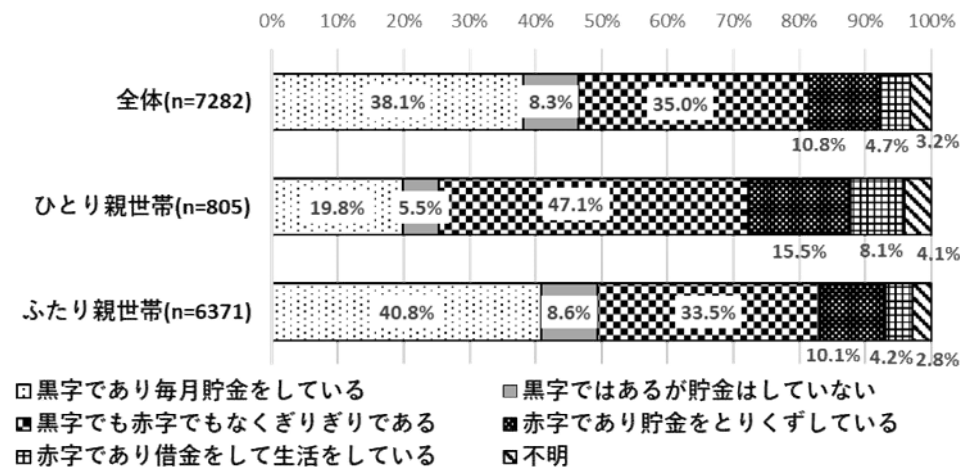
市民アンケート実施結果 概要

家計の状況について ※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

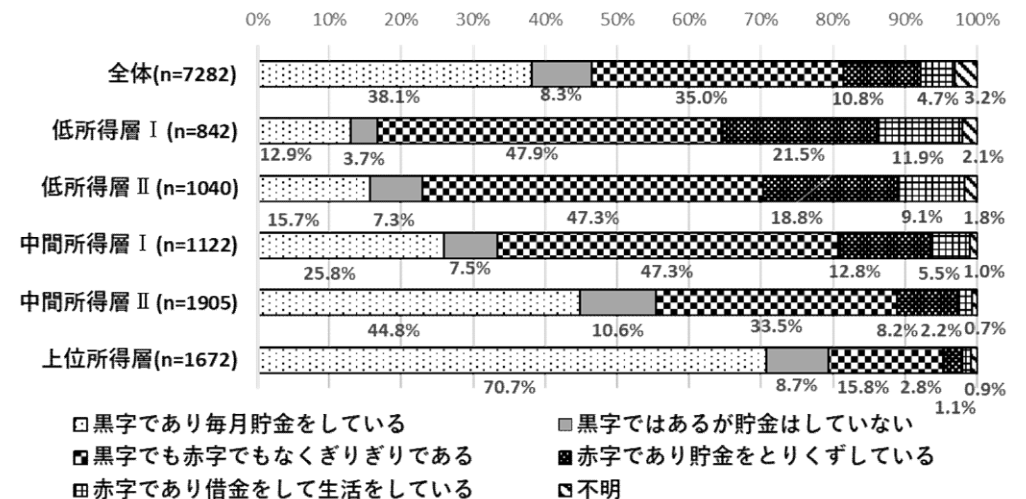
●世帯全体では、「赤字で貯金を取りくずしている」「赤字で借金をしている」と回答した割合は、15.5%(10.8%+4.7%)である。

●ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯に比べて、「赤字で貯金を取りくずしている」「赤字で借金をしている」の割合が高い。また、ひとり親世帯では「黒字でも赤字でもなくぎりぎりである」が47.1%と最も多いが、ふたり親世帯では「黒字で毎月貯金をしている」が40.8%と最も多い。

家計の状況（世帯類型）



家計の状況（所得階層）



※住宅ローンや車のローンなども支出に含める

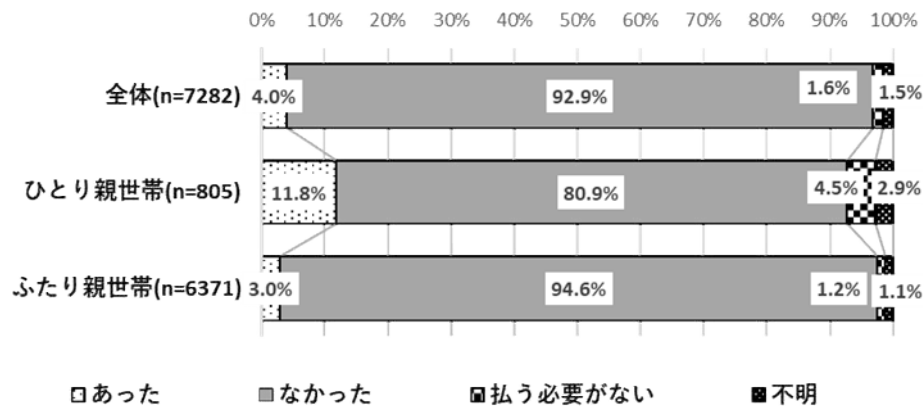
市民アンケート実施結果 概要

経済的な理由により、電気、ガス、水道のいずれかの料金の支払いができなかった経験

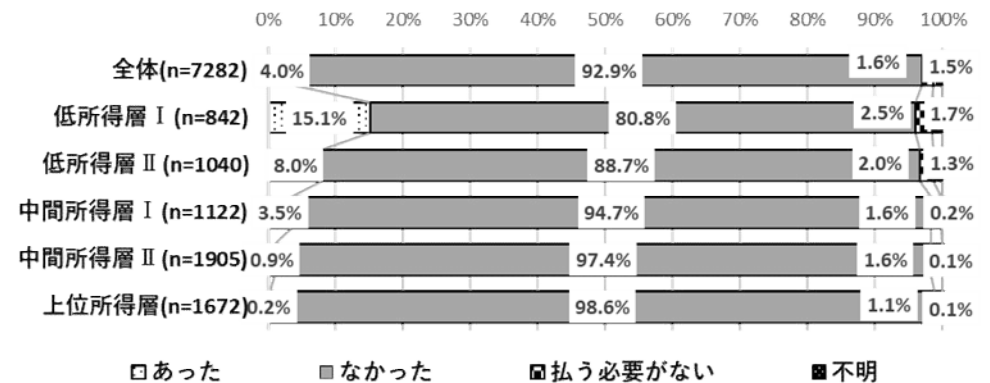
※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 世帯全体では、支払えないことが「あった」と回答した割合は、4.0%である。
- ひとり親世帯の11.8%に支払いができなかった経験があり、ふたり親世帯の3.0%に比べて、かなり高いと言える。

電気、ガス、水道の支払い滞納状況（世帯類型）



電気、ガス、水道の支払い滞納状況（所得階層）



市民アンケート実施結果 概要

経済的な理由により、家族が必要とする食料を買えなかった経験

※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 世帯全体では、経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験があった(「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」の合計)と回答した割合は、全体で10.6%である。
- 経験があったと回答した割合は、ひとり親世帯は23.0%とふたり親世帯の9.0%に比べ高く、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある(低所得層Ⅰでは29.6%、上位所得層では1.3%)。

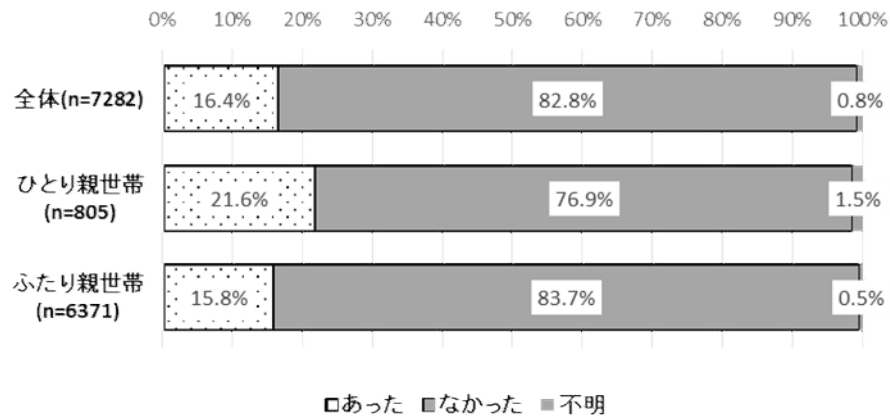
		経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験				
		よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体(n=7282)		1.1%	3.7%	5.8%	88.0%	1.4%
世帯類型	ひとり親世帯 (n=805)	3.0%	9.6%	10.4%	74.0%	3.0%
	ふたり親世帯 (n=6371)	0.8%	3.0%	5.3%	90.0%	1.0%
		経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験				
		よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体(n=7282)		1.1%	3.7%	5.8%	88.0%	1.4%
所得階層	低所得層 Ⅰ (n=842)	4.4%	12.1%	13.1%	69.2%	1.2%
	低所得層 Ⅱ (n=1040)	2.4%	6.1%	11.0%	79.5%	1.1%
	中間所得層 Ⅰ (n=1122)	0.6%	4.1%	7.8%	87.1%	0.4%
	中間所得層 Ⅱ (n=1905)	0.2%	1.8%	2.9%	94.6%	0.4%
	上位所得層 (n=1672)	0.0%	0.1%	1.2%	98.6%	0.1%

市民アンケート実施結果 概要

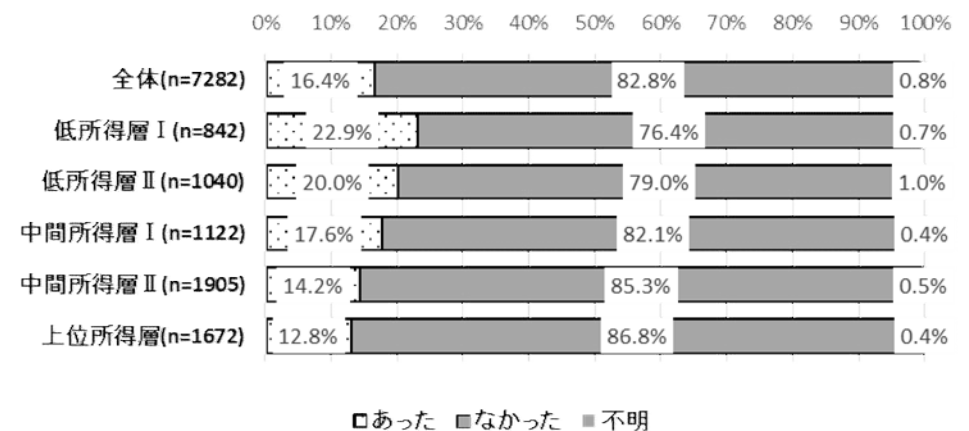
子どもに必要な病院受診をさせなかった経験 ※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 世帯全体では、「子どもに必要な病院受診をさせなかった経験」がある世帯は16.4%であり、中学2年生でやや高い傾向にある。【小5:16.9%、中2:19.0%、高2:17.6%(グラフは省略)】
- ひとり親世帯がふたり親世帯に比べて、「子どもに必要な病院受診をさせなかった経験」のある割合がやや高い。
- 所得階層が低くなるほど、「子どもに必要な病院受診をさせなかった経験」のある割合が高くなる傾向にある。

子どもに必要な病院受診をさせなかった経験(世帯類型)



子どもに必要な病院受診をさせなかった経験(所得階層)



市民アンケート実施結果 概要

子どもに必要な病院受診をさせなかった理由 ※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 子どもに必要な病院受診をさせなかった理由として「お金がなかった」と回答した割合は世帯全体で13.1%で、ひとり親世帯は22.4%とふたり親世帯の11.5%に比べて高い。また、所得階層が低いほど「お金がなかった」と回答した割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは32.6%、上位所得層では1.9%）。
- 「仕事で連れていく時間がなかった」と回答した割合は全体で35.5%で、ひとり親世帯は50.0%と、ふたり親世帯の32.9%に比べて高い。

		子どもに必要な病院受診をさせなかった理由										※複数回答
		お金がなかった	保険証がなかった	仕事で連れていく時間がなかった	他の子どもが世話で連れていく時間がなかった	自分の健康状態が悪く連れて行けなかった	病院が遠かった	子どもが嫌がった	様子をみていたら回復した	感染予防のため受診を控えた	その他	
全体(n=1196)		13.1%	0.9%	35.5%	8.4%	4.6%	2.7%	13.0%	29.8%	42.6%	8.4%	1.3%
世帯類型	ひとり親世帯(n=174)	22.4%	1.7%	50.0%	2.9%	6.9%	3.4%	16.7%	16.7%	27.0%	6.9%	1.1%
	ふたり親世帯(n=1004)	11.5%	0.8%	32.9%	9.5%	4.3%	2.6%	12.5%	32.5%	45.4%	8.6%	1.3%
		子どもに必要な病院受診をさせなかった理由										※複数回答
		お金がなかった	保険証がなかった	仕事で連れていく時間がなかった	他の子どもが世話で連れていく時間がなかった	自分の健康状態が悪く連れて行けなかった	病院が遠かった	子どもが嫌がった	様子をみていたら回復した	感染予防のため受診を控えた	その他	
全体(n=1196)		13.1%	0.9%	35.5%	8.4%	4.6%	2.7%	13.0%	29.8%	42.6%	8.4%	1.3%
所得階層	低所得層Ⅰ(n=193)	32.6%	2.1%	39.4%	5.7%	5.7%	4.7%	13.0%	19.2%	33.7%	6.7%	1.0%
	低所得層Ⅱ(n=208)	20.2%	2.4%	38.9%	14.9%	8.7%	1.9%	15.4%	28.8%	43.8%	9.1%	0.0%
	中間所得層Ⅰ(n=197)	11.7%	0.5%	35.0%	8.1%	5.6%	3.6%	13.2%	36.0%	40.6%	10.2%	1.0%
	中間所得層Ⅱ(n=270)	5.6%	0.0%	38.5%	7.8%	2.2%	3.0%	10.7%	28.5%	46.3%	7.4%	0.7%
	上位所得層(n=214)	1.9%	0.5%	30.4%	7.5%	2.3%	0.5%	12.6%	34.6%	43.5%	11.2%	2.8%

市民アンケート実施結果 概要

進学に対する希望 ※ 小5、中2、高2の子どもが回答

- 「どの段階まで進学したいか」について、世帯全体では、約5割の子どもが「大学またはそれ以上」と回答した。
- 「高校まで」と回答した割合は、世帯全体では8.8%であるが、学年が上がるごとに回答した割合は低くなっている【小5:11.3%、中2:9.5%、高2:5.2%(表は省略)】。
- ひとり親世帯で「大学またはそれ以上」を希望する子どもは42.5%と、ふたり親世帯の54.8%に比べて低い。
- 所得階層別にみると、低所得層Ⅰ～中間所得層Ⅰでは、約4割の子どもが「大学またはそれ以上」を希望しており、上位2層(上位所得層、中間所得層Ⅱ)は、「大学またはそれ以上」の希望がそれぞれ67.3%、56.0%と、低所得層Ⅰ～中間所得層Ⅰに比べて高い。

		どの段階まで進学したいか							
		中学まで	高校まで	短大	高等専門学校	専門学校	大学またはそれ以上	まだわからない	不明
世帯類型	全体(n=3513)	0.3%	8.8%	1.5%	1.3%	10.4%	51.9%	25.1%	0.7%
	ひとり親世帯(n=496)	0.4%	11.5%	1.4%	1.6%	17.5%	42.5%	24.2%	0.8%
	ふたり親世帯(n=2737)	0.3%	8.0%	1.6%	1.2%	8.8%	54.8%	24.8%	0.5%
		中学まで	高校まで	短大	高等専門学校	専門学校	大学またはそれ以上	まだわからない	不明
所得階層	全体(n=3513)	0.3%	8.8%	1.5%	1.3%	10.4%	51.9%	25.1%	0.7%
	低所得層Ⅰ(n=420)	0.5%	14.3%	2.1%	1.4%	13.6%	40.5%	26.4%	1.2%
	低所得層Ⅱ(n=430)	0.2%	12.8%	0.7%	0.7%	12.6%	43.0%	29.5%	0.5%
	中間所得層Ⅰ(n=461)	0.0%	9.5%	1.7%	2.0%	12.4%	42.5%	31.5%	0.4%
	中間所得層Ⅱ(n=841)	0.5%	7.5%	1.5%	1.1%	9.6%	56.0%	23.4%	0.4%
	上位所得層(n=790)	0.0%	3.8%	1.5%	1.0%	5.4%	67.3%	20.5%	0.4%

※「中学まで」は小5・中2のみが回答

市民アンケート実施結果 概要

進学に対する希望 ※ 小5、中2保護者が回答

- 「子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか」について、世帯全体では57.6%が「四年制大学またはそれ以上」、6.8%が「高校」と回答した。
- ひとり親世帯では、「四年制大学またはそれ以上」と回答した割合は48.1%と、ふたり親世帯の59.7%に比べて低く、「高校」と回答した割合は10.5%と、ふたり親世帯の5.9%に比べて高い。
- 所得階層が高くなるほど、「四年制大学またはそれ以上」と回答する者が多くなり、所得階層が低くなるほど、「高校」と回答する者が多い。

		子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか								
		中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	四年制大学またはそれ以上	まだわからない	その他	不明
全体(n=2396)		0.3%	6.8%	1.3%	2.2%	7.6%	57.6%	19.4%	2.5%	2.3%
世帯類型	ひとり親世帯 (n=351)	0.9%	10.5%	2.3%	1.7%	11.1%	48.1%	19.9%	4.0%	1.4%
	ふたり親世帯 (n=1996)	0.2%	5.9%	1.1%	2.3%	7.1%	59.7%	19.5%	2.3%	2.2%
		中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	四年制大学またはそれ以上	まだわからない	その他	不明
全体(n=2396)		0.3%	6.8%	1.3%	2.2%	7.6%	57.6%	19.4%	2.5%	2.3%
所得階層	低所得層 Ⅰ (n=298)	0.7%	17.8%	3.0%	2.3%	10.7%	36.9%	22.5%	3.4%	2.7%
	低所得層 Ⅱ (n=323)	0.0%	9.9%	1.5%	2.5%	12.4%	43.7%	23.8%	3.7%	2.5%
	中間所得層 Ⅰ (n=363)	0.0%	8.5%	2.2%	3.3%	10.2%	47.7%	22.0%	3.6%	2.5%
	中間所得層 Ⅱ (n=600)	0.5%	4.5%	0.8%	2.2%	6.8%	66.2%	16.2%	0.8%	2.0%
	上位所得層 (n=571)	0.2%	1.2%	0.4%	1.2%	3.2%	79.0%	12.3%	2.3%	0.4%

市民アンケート実施結果 概要

教育を受けさせるためのお金の準備 ※ 小5、中2の保護者が回答

- 世帯全体では、「貯金や学資保険などで準備を始めている」と回答した割合は、58.3%である。
- ひとり親世帯では、ふたり親世帯と比べて、「貯金や学資保険などで準備を始めている」との回答が少なく、「時期になったら奨学金を利用する予定である」、「まったく目処はついていない」という回答が多い。
- 所得階層が低くなると、「時期になったら奨学金を利用する予定である」、「まったく目処はついていない」という回答が多い。特に、低所得層Ⅰでは、3割を超える世帯が「まったく目処はついていない」と回答している。

		教育を受けさせるためのお金の準備					
		必要なお金はすでに準備できている	貯金や学資保険などで準備を始めている	時期になったら奨学金を利用する予定である	まったく目処はついていない	その他	不明
全体(n=2396)		10.1%	58.3%	11.8%	16.0%	1.4%	2.4%
世帯類型	ひとり親世帯(n=351)	6.8%	38.5%	22.2%	28.8%	2.6%	1.1%
	ふたり親世帯(n=1996)	10.8%	62.4%	10.0%	13.7%	1.2%	2.0%

		教育を受けさせるためのお金の準備					
		必要なお金はすでに準備できている	貯金や学資保険などで準備を始めている	時期になったら奨学金を利用する予定である	まったく目処はついていない	その他	不明
全体(n=2396)		10.1%	58.3%	11.8%	16.0%	1.4%	2.4%
所得階層	低所得層Ⅰ(n=298)	4.0%	35.2%	21.8%	36.6%	1.0%	1.3%
	低所得層Ⅱ(n=323)	3.1%	45.5%	19.8%	27.9%	1.9%	1.9%
	中間所得層Ⅰ(N=363)	5.8%	54.8%	12.9%	22.3%	2.2%	1.9%
	中間所得層Ⅱ(n=600)	9.0%	69.5%	11.2%	8.3%	0.7%	1.3%
	上位所得層(n=571)	22.9%	70.1%	3.2%	2.3%	1.1%	0.5%

市民アンケート実施結果 概要

子どもが高校卒業後に進学する場合に学校に行くのにかかるお金の用意の方法 ※ 高2の保護者が回答

●子どもが高校卒業後に進学する場合に学校に行くのにかかるお金の用意の方法として、「貯金をあてる」と回答した割合は世帯全体では59.7%。ひとり親世帯は45.1%とふたり親世帯の62.8%に比べ低い。また、所得階層が低いほど割合が低い傾向にある（低所得層Ⅰでは28.9%、上位所得層では83.2%）。

●「金銭的なめどが立っていない」と回答した割合は世帯全体では9.0%。ひとり親世帯は16.5%とふたり親世帯の7.3%に比べ高い。また、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは22.1%、上位所得層では1.1%）。

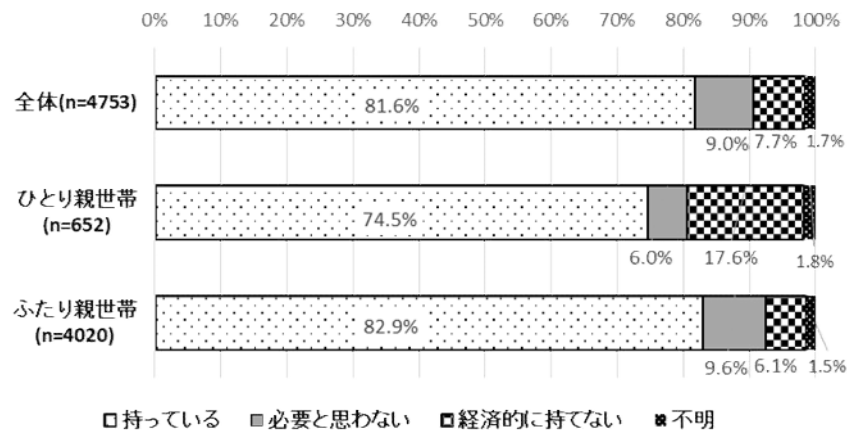
		子どもが高校卒業後に進学する場合のお金の用意の方法										※複数回答	
		貯金をあてる	学資保険をあてる	給付型奨学金(返済の必要がないもの)を利用する	貸与型奨学金(将来返済の必要があるもの)を利用する	教育ローンを利用する	生活福祉資金・母子父子寡婦福祉資金を利用する	親せき等からの援助	子ども本人のアルバイト	金銭的なめどが立っていない	その他	不明	
全体(n=1108)		59.7%	41.9%	25.2%	33.6%	13.4%	2.0%	2.9%	13.3%	9.0%	1.3%	1.8%	
世帯類型	ひとり親世帯(n=182)	45.1%	25.3%	47.8%	35.7%	12.1%	11.0%	2.2%	19.8%	16.5%	1.1%	3.3%	
	ふたり親世帯(n=904)	62.8%	45.8%	20.6%	33.4%	13.7%	0.1%	3.1%	11.9%	7.3%	1.3%	1.2%	
		子どもが高校卒業後に進学する場合のお金の用意の方法										※複数回答	
		貯金をあてる	学資保険をあてる	給付型奨学金(返済の必要がないもの)を利用する	貸与型奨学金(将来返済の必要があるもの)を利用する	教育ローンを利用する	生活福祉資金・母子父子寡婦福祉資金を利用する	親せき等からの援助	子ども本人のアルバイト	金銭的なめどが立っていない	その他	不明	
全体(n=1108)		59.7%	41.9%	25.2%	33.6%	13.4%	2.0%	2.9%	13.3%	9.0%	1.3%	1.8%	
所得階層	低所得層Ⅰ(n=149)	28.9%	26.8%	49.7%	34.2%	11.4%	7.4%	4.0%	20.1%	22.1%	0.7%	1.3%	
	低所得層Ⅱ(n=131)	43.5%	28.2%	38.2%	43.5%	16.0%	3.8%	3.8%	22.1%	13.7%	0.8%	6.1%	
	中間所得層Ⅰ(n=123)	57.7%	42.3%	33.3%	40.7%	13.0%	1.6%	4.1%	13.0%	13.0%	0.8%	0.8%	
	中間所得層Ⅱ(n=289)	60.2%	51.9%	18.3%	40.1%	18.3%	0.3%	2.8%	11.8%	6.2%	1.4%	0.3%	
	上位所得層(n=273)	83.2%	51.6%	10.3%	24.2%	10.6%	0.0%	2.2%	5.9%	1.1%	1.8%	0.0%	

市民アンケート実施結果 概要

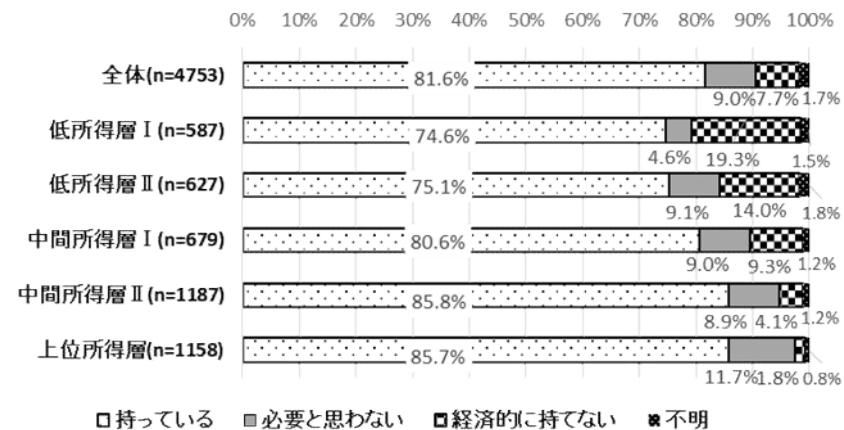
子ども部屋の有無 ※ 小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 子ども部屋を「経済的に持てない」と回答した割合は、世帯全体で7.7%である。
- ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて「経済的に持てない」と回答した割合が高く(ひとり親世帯は17.6%、ふたり親世帯は6.1%)、また、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある(低所得層Ⅰでは19.3%、上位所得層では1.8%)。

子ども部屋はあるか(世帯類型)



子ども部屋はあるか(所得階層)

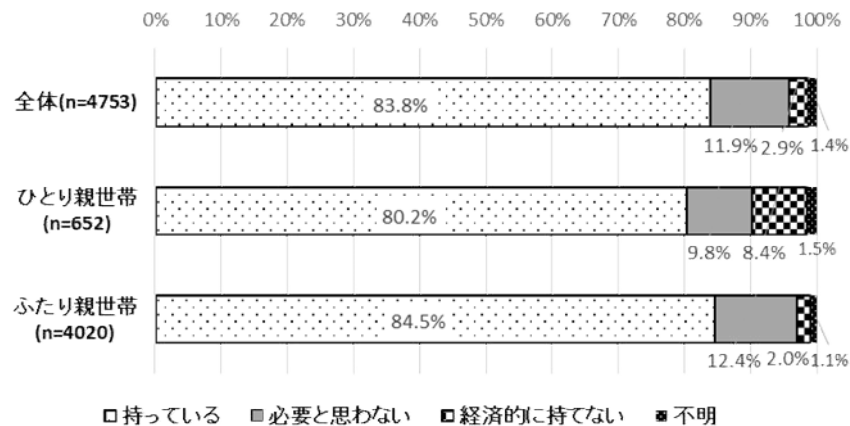


市民アンケート実施結果 概要

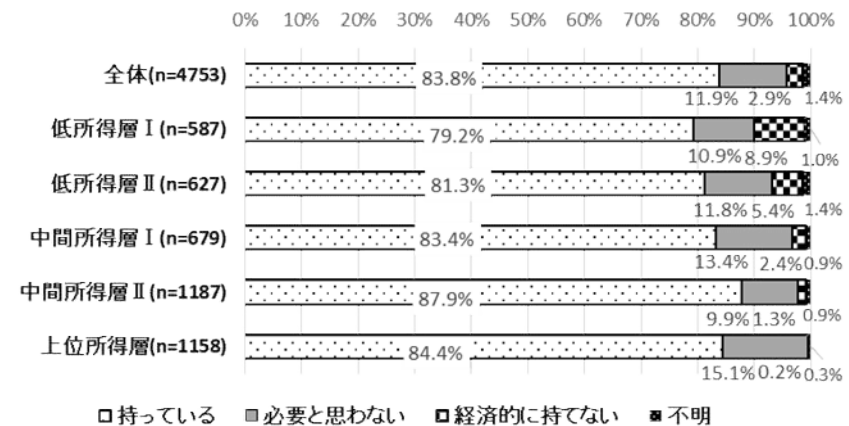
子ども専用の勉強机の有無 ※ 小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 子ども専用の勉強机を経済的に持てないと回答した割合は、全体で2.9%である。
- ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて「経済的に持てない」と回答した割合が高く(ひとり親世帯は8.4%、ふたり親世帯は2.0%)、また、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある(低所得層Ⅰでは8.9%、上位所得層では0.2%)。

子ども専用の勉強机はあるか(世帯類型)



子ども専用の勉強机はあるか(所得階層)

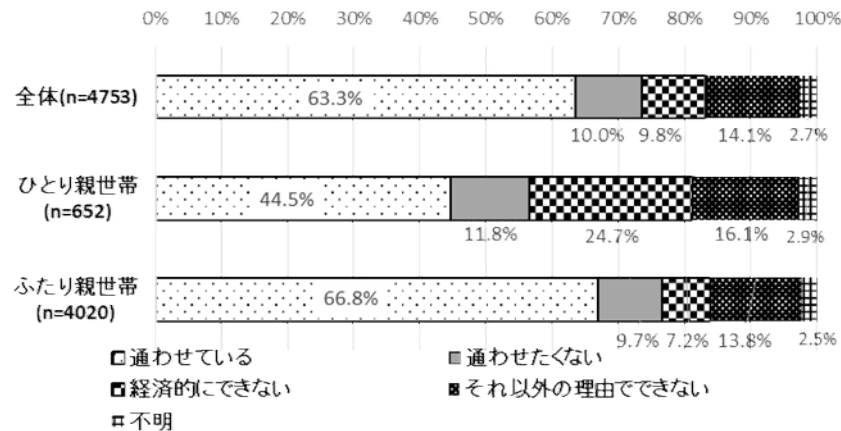


市民アンケート実施結果 概要

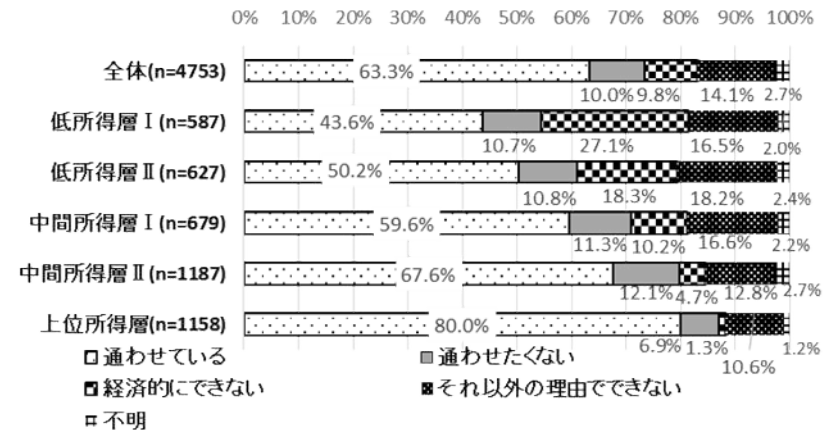
子どもを習い事に通わせているかどうか ※ 小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 子どもを習い事に通わせているかについて「経済的にできない」と回答した割合は、世帯全体で9.8%である。
- ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて「経済的にできない」と回答した割合が高く(ひとり親世帯は24.7%、ふたり親世帯は7.2%)、また、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある(低所得層Ⅰでは27.1%、上位所得層では1.3%)。

子どもを習い事に通わせているか(世帯類型)



子どもを習い事に通わせているか(所得階層)

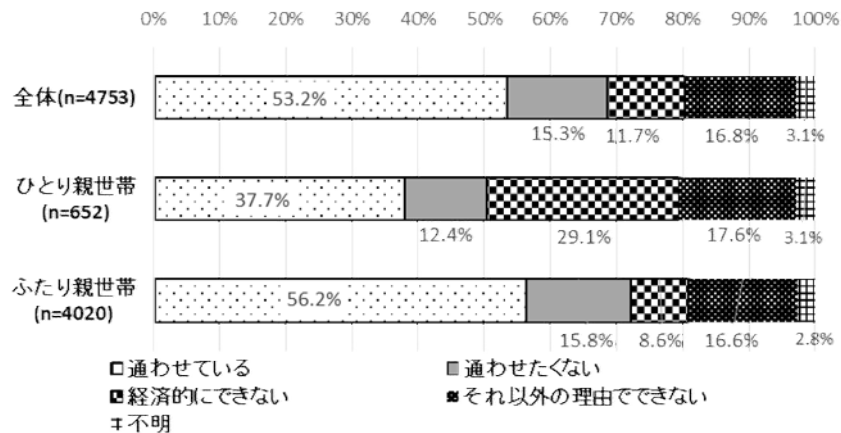


市民アンケート実施結果 概要

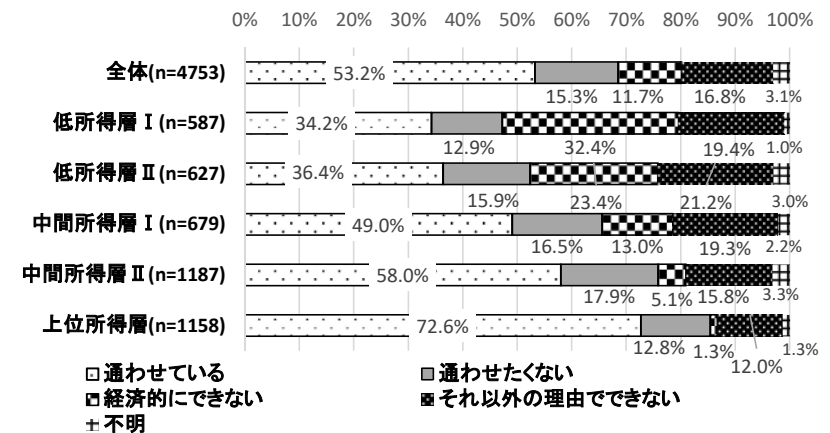
子どもを学習塾に通わせているかどうか ※ 小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 子どもを学習塾に通わせているかについて「経済的にできない」と回答した割合は、世帯全体で11.7%である。
- ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて「経済的にできない」と回答した割合が高く（ひとり親世帯は29.1%、ふたり親世帯は8.6%）、また、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは32.4%、上位所得層では1.3%）。

子どもを学習塾に通わせているか(世帯類型)



子どもを学習塾に通わせているか(所得階層)



市民アンケート実施結果 概要

子ども・子育てについての悩みを相談する相手について

※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 回答者のほとんどに何らかの相談相手がいて、「相談する人はいない」と回答した割合は2.5%である。
- しかし、ひとり親世帯では「相談する人はいない」が7.6%と、ふたり親世帯の1.9%と比べると高い。
- 相談相手は、74.2%が「同居の家族」、63.7%が「同居していない家族・親戚」と高い比率を示しており、家族、親族が相談相手として選ばれることが一般的といえる。
- 所得階層別にみると、「相談する人はいない」が、上位所得層では1.3%であるのに対し、低所得層Ⅰでは5.0%と、所得階層が低くなるほど、社会的に孤立する可能性が高くなると考えられる。

		子ども・子育てについての悩みを相談する相手											※複数回答
		同居の家族	同居していない家族・親戚	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない	
全体(n=7282)		74.2%	63.7%	31.0%	6.6%	52.3%	24.3%	3.0%	5.6%	2.0%	1.5%	2.5%	0.9%
世帯類型	ひとり親世帯(n=805)	26.1%	54.8%	36.8%	3.5%	52.7%	17.5%	3.4%	7.0%	2.2%	1.9%	7.6%	1.5%
	ふたり親世帯(n=6371)	80.5%	65.1%	30.4%	7.0%	52.5%	25.4%	3.0%	5.5%	2.0%	1.4%	1.9%	0.7%
		子ども・子育てについての悩みを相談する相手											※複数回答
		同居の家族	同居していない家族・親戚	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない	
全体(n=7282)		74.2%	63.7%	31.0%	6.6%	52.3%	24.3%	3.0%	5.6%	2.0%	1.5%	2.5%	0.9%
所得階層	低所得層Ⅰ(n=842)	49.4%	55.7%	29.5%	5.5%	51.5%	20.1%	4.0%	5.9%	3.2%	2.0%	5.0%	1.0%
	低所得層Ⅱ(n=1040)	71.6%	66.2%	28.0%	6.0%	55.2%	24.9%	3.8%	5.2%	3.5%	0.9%	3.6%	0.9%
	中間所得層Ⅰ(n=1122)	76.3%	67.4%	31.6%	7.1%	53.8%	25.8%	3.7%	6.1%	1.7%	1.5%	2.0%	0.4%
	中間所得層Ⅱ(n=1905)	79.7%	65.7%	33.2%	6.5%	53.8%	26.2%	2.9%	5.6%	1.8%	1.3%	2.0%	0.3%
	上位所得層(n=1672)	81.7%	62.7%	34.2%	7.1%	50.8%	25.7%	2.5%	6.0%	0.9%	1.8%	1.3%	0.2%

市民アンケート実施結果 概要

入院などで子どもの面倒を見られなくなったとき、代わりに面倒を見てくれる人について

※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 子どもの面倒を見られなくなったとき、代わりに面倒を見てくれる人について、世帯類型ごと、所得階層ごとにみても最も多いのは「子どもの祖父母」であり、50%～60%台である。
- 一方、「面倒を見てくれる人はいない」と回答した割合は、全体では13.5%であるが、ひとり親世帯は17.4%とふたり親世帯の13.1%に比べてやや高く、また、所得階層ごとにみるとばらつきがあるが、低所得層Ⅰが17.9%とやや高い。

		入院などで子どもの面倒をみられなくなったときに、代わって子どもの面倒をみってくれる人							
		子どもの祖父母	子どものおじやおば	その他の親せき	職場の人	近所の人	その他の友人・知人	面倒をみてくれる人はいない	不明
全体(n=7282)		65.2%	4.1%	1.1%	0.1%	0.1%	0.7%	13.5%	15.3%
世帯類型	ひとり親世帯(n=805)	54.8%	6.5%	2.1%	0.1%	0.1%	2.0%	17.4%	17.0%
	ふたり親世帯(n=6371)	66.6%	3.8%	0.9%	0.1%	0.1%	0.5%	13.1%	15.0%
		入院などで子どもの面倒をみられなくなったときに、代わって子どもの面倒をみってくれる人							
		子どもの祖父母	子どものおじやおば	その他の親せき	職場の人	近所の人	その他の友人・知人	面倒をみてくれる人はいない	不明
全体(n=7282)		65.2%	4.1%	1.1%	0.1%	0.1%	0.7%	13.5%	15.3%
所得階層	低所得層Ⅰ(n=842)	58.2%	6.1%	1.0%	0.0%	0.1%	1.7%	17.9%	15.1%
	低所得層Ⅱ(n=1040)	67.6%	3.7%	1.5%	0.2%	0.0%	1.1%	12.9%	13.1%
	中間所得層Ⅰ(n=1122)	67.3%	4.2%	0.9%	0.1%	0.0%	0.2%	11.3%	16.0%
	中間所得層Ⅱ(n=1905)	67.2%	3.5%	1.0%	0.1%	0.2%	0.4%	12.6%	15.0%
	上位所得層(n=1672)	66.6%	4.1%	0.6%	0.0%	0.2%	0.6%	13.7%	14.3%

市民アンケート実施結果 概要

子育てに関する制度やサービスの利用状況(子ども食堂) ※ 2歳、5歳、小2、小5、中2の保護者が回答

●世帯全体では、「利用する必要がなかった」が約8割を占めたが、ひとり親世帯、低所得層はそれぞれ、61.5%、62.0%と、他の世帯と比較して潜在的なニーズがうかがわれる。

●「利用する必要がなかった」以外の利用していない理由については、特にひとり親世帯や低所得層において、「制度やサービスについてまったく知らなかった」、「利用の仕方がわからなかった」、「制度やサービスがなかった」と回答した割合が他の世帯と比較して高く、支援につながりにくい傾向がうかがわれる。

子育てに関する制度やサービスの利用状況 ●子ども食堂		利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体(n=6174)		3.0%	76.9%	0.3%	0.8%	2.0%	4.7%	6.0%	3.2%	3.1%
世帯類型	ひとり親世帯(n=623)	3.2%	61.5%	0.3%	1.4%	5.0%	7.2%	9.6%	6.9%	4.8%
	ふたり親世帯(n=5467)	3.0%	78.9%	0.3%	0.7%	1.7%	4.5%	5.6%	2.8%	2.7%
子育てに関する制度やサービスの利用状況 ●子ども食堂		利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体(n=6174)		3.0%	76.9%	0.3%	0.8%	2.0%	4.7%	6.0%	3.2%	3.1%
所得階層	低所得層Ⅰ(n=693)	4.2%	62.0%	0.1%	0.9%	5.1%	8.1%	10.0%	6.1%	3.6%
	低所得層Ⅱ(n=909)	3.2%	71.7%	0.9%	1.8%	3.0%	5.1%	8.4%	3.4%	2.6%
	中間所得層Ⅰ(n=999)	3.5%	77.4%	0.3%	0.7%	2.0%	5.7%	5.2%	3.4%	1.8%
	中間所得層Ⅱ(n=1616)	2.4%	81.8%	0.1%	0.8%	1.1%	3.8%	5.6%	3.0%	1.5%
	上位所得層(n=1399)	2.8%	85.2%	0.1%	0.4%	1.0%	3.1%	3.6%	2.3%	1.4%

市民アンケート実施結果 概要

子育てに関する制度やサービスの利用状況(無料の学習支援) ※ 小2、小5、中2の保護者が回答

●世帯全体では、「利用したことがある・利用している」の回答は2.0%であるが、ひとり親世帯は6.4%、低所得層は5.0%と、他の世帯と比較して利用している実態にある。また、全体の約7割の者が「利用する必要がなかった」と回答しているが、ひとり親世帯は47.7%、低所得層は49.3%と、他の世帯と比較して、潜在的なニーズがうかがわれる。

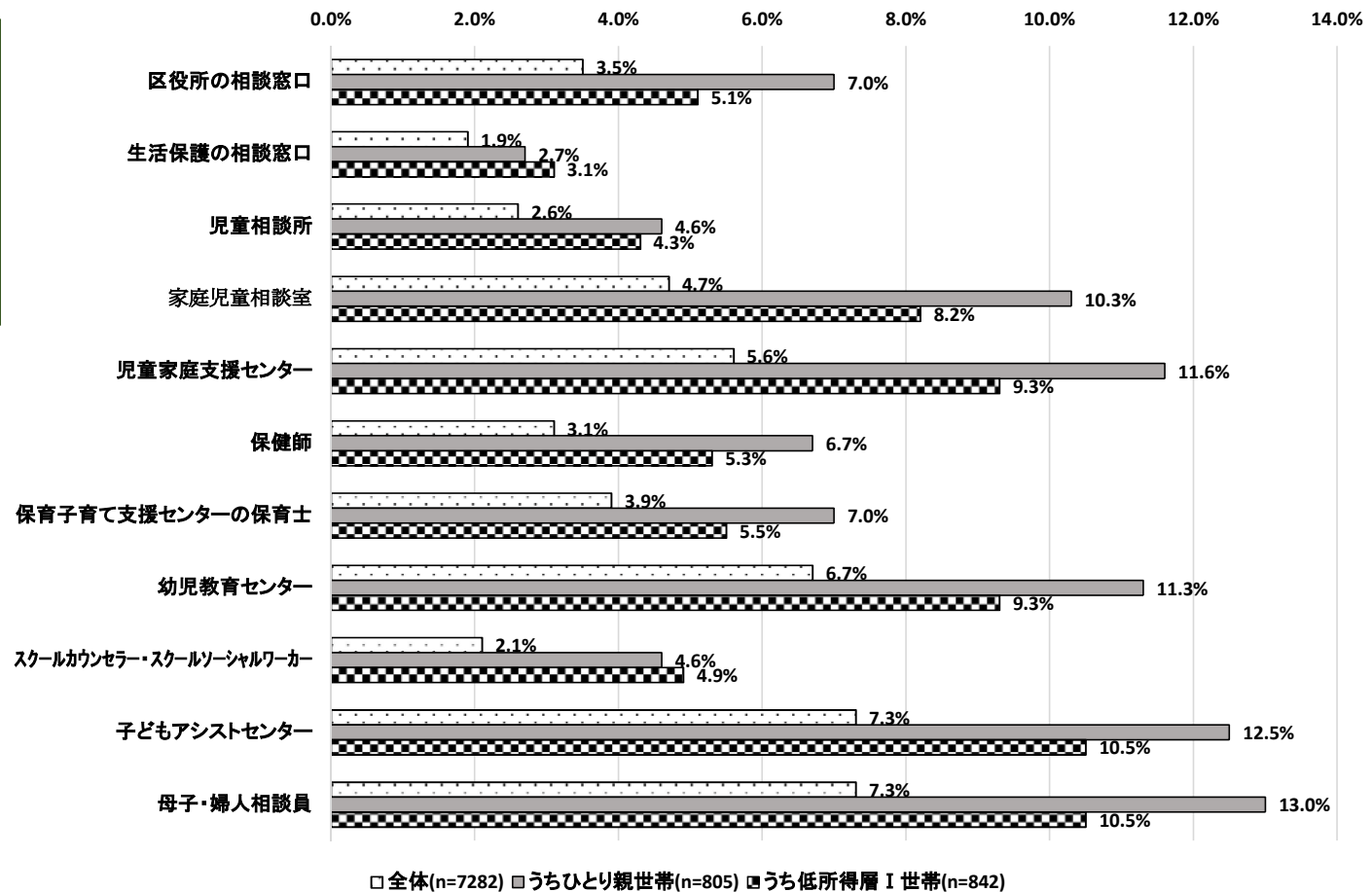
●「利用する必要がなかった」以外の利用していない理由については、「子ども食堂」と同様に、特にひとり親世帯や低所得層において、「制度やサービスについてまったく知らなかった」、「利用の仕方がわからなかった」、「制度やサービスがなかった」と回答した割合が、他の世帯と比較して高く、支援につながりにくい傾向がうかがわれる。

子育てに関する制度やサービスの利用状況 ●無料の学習支援		利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体(n=3645)		2.0%	66.4%	0.5%	1.0%	1.1%	5.0%	15.6%	4.4%	4.0%
世帯類型	ひとり親世帯(n=470)	6.4%	47.7%	0.2%	3.4%	3.8%	8.7%	19.8%	5.1%	4.9%
	ふたり親世帯(n=3116)	1.4%	69.6%	0.5%	0.6%	0.7%	4.4%	15.0%	4.2%	3.5%
子育てに関する制度やサービスの利用状況 ●無料の学習支援		利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体(n=3645)		2.0%	66.4%	0.5%	1.0%	1.1%	5.0%	15.6%	4.4%	4.0%
所得階層	低所得層Ⅰ(n=438)	5.0%	49.3%	0.2%	3.0%	4.3%	8.7%	20.8%	4.3%	4.3%
	低所得層Ⅱ(n=496)	4.0%	57.7%	1.0%	1.8%	1.8%	5.4%	19.4%	5.6%	3.2%
	中間所得層Ⅰ(n=556)	1.6%	64.4%	0.9%	0.5%	0.9%	6.1%	18.7%	4.7%	2.2%
	中間所得層Ⅱ(n=898)	1.1%	70.9%	0.6%	0.6%	0.2%	3.9%	15.0%	5.0%	2.7%
	上位所得層(n=885)	0.9%	79.4%	0.1%	0.2%	0.2%	3.4%	10.8%	3.4%	1.5%

市民アンケート実施結果 概要

子育てに関する機関や相談窓口を知らなかったと答えた人の割合 ※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

●子育てに関する機関や相談窓口を知らなかったと回答した割合は、相談先のすべての項目で、ひとり親世帯、低所得層Ⅰ世帯が世帯全体を上回っている。



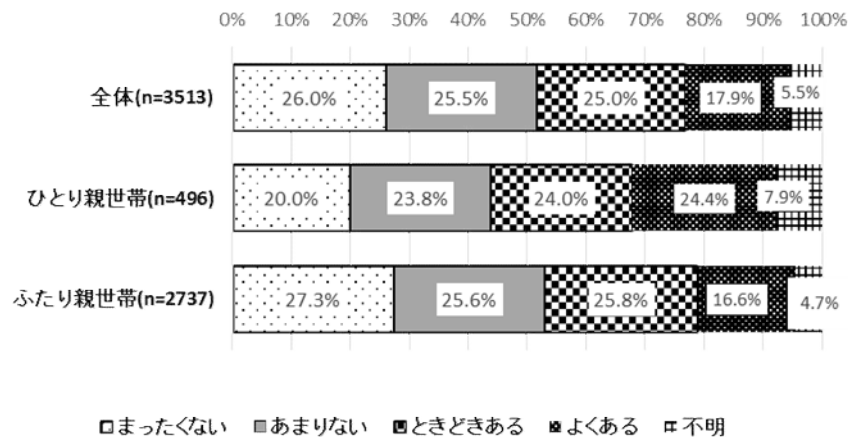
※スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーは小2、小5、中2、高2の保護者が回答

市民アンケート実施結果 概要

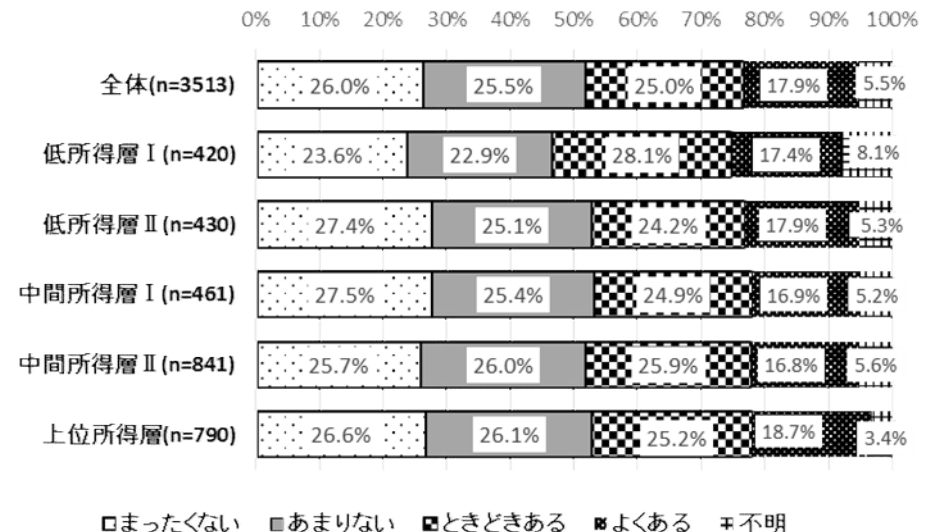
平日の放課後一人で過ごす子どもの割合 ※ 小5、中2、高2の子どもが回答

- 世帯全体では、平日の放課後、一人で過ごすことが「よくある」「ときどきある」と回答した割合は併せて42.9%である。
- ひとり親世帯の子どもは、ふたり親世帯の子どもに比べ、平日の放課後、一人で過ごすことが「よくある」と回答した割合が高く、逆に「まったくない」と回答した割合が低い。
- 平日の放課後、一人で過ごすかどうかに関して、所得階層による違いはほとんどみられなかった。

平日の放課後一人で過ごす割合(世帯類型)



平日の放課後一人で過ごす割合(所得階層)



市民アンケート実施結果 概要

子どもが平日に夕食をだれと食べるかの割合 ※ 小2の保護者、小5、中2、高2の子どもが回答

- 世帯全体では、平日に夕食を一人で食べると回答した割合は5.9%である。
- ひとり親世帯の子どもが平日に夕食を一人で食べる割合は10.1%で、ふたり親世帯の子どもの4.9%と比べて高い。
- 平日に夕食を一人で食べる割合を所得階層ごとにみると、階層ごとにばらつきが見られるものの、低所得層Ⅰ世帯では7.7%と、ほかの所得階層に比べてやや高い。

		平日に夕食をだれと食べるか				
		家族	家族以外の人 きょうだいで食べる	きょうだいだけ 一人で食べる	一人で食べる	不明
全体(n=4762)		87.9%	0.8%	3.2%	5.9%	2.2%
世帯類型	ひとり親世帯 (n=615)	81.3%	1.0%	3.9%	10.1%	3.7%
	ふたり親世帯 (n=3857)	89.4%	0.7%	3.0%	4.9%	1.9%

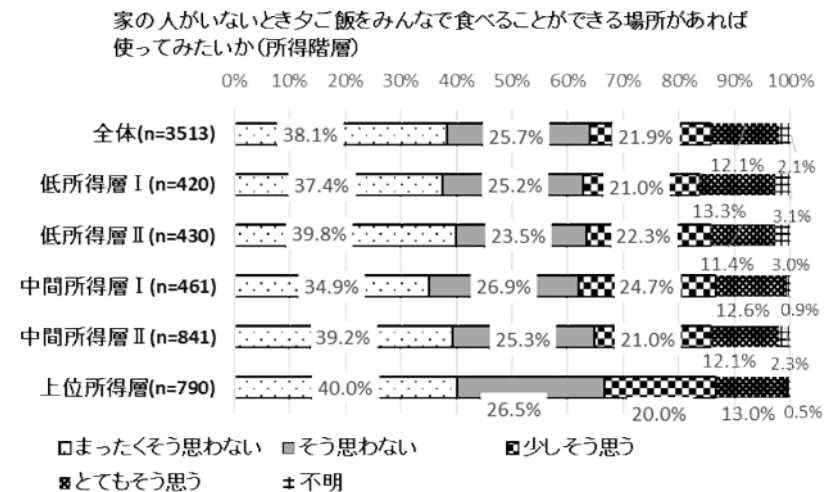
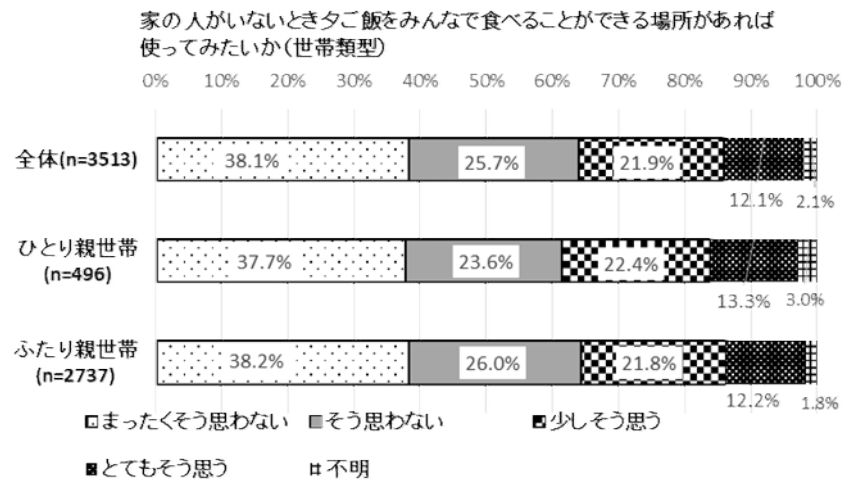
		平日に夕食をだれと食べるか				
		家族	家族以外の人 きょうだいで食べる	きょうだいだけ 一人で食べる	一人で食べる	不明
全体(n=4762)		87.9%	0.8%	3.2%	5.9%	2.2%
所得階層	低所得層Ⅰ (n=560)	84.1%	0.7%	3.8%	7.7%	3.8%
	低所得層Ⅱ (n=603)	87.4%	0.8%	4.8%	4.8%	2.2%
	中間所得層Ⅰ (n=654)	88.7%	0.8%	3.7%	4.4%	2.4%
	中間所得層Ⅱ (n=1139)	89.7%	0.3%	2.7%	6.1%	1.2%
	上位所得層 (n=1104)	88.9%	0.9%	2.5%	5.9%	1.7%

市民アンケート実施結果 概要

使ってみたい場所(家の人がいなくてタゴ飯をみんなで食べることができる場所) ※ 小5、中2、高2の子どもが回答

●家の人がいなくてタゴ飯をみんなで食べることができる場所があれば使ってみたいかという質問に「少しそう思う」「とてもそう思う」と回答した割合は、全体で34.0%と3割を上回っている。

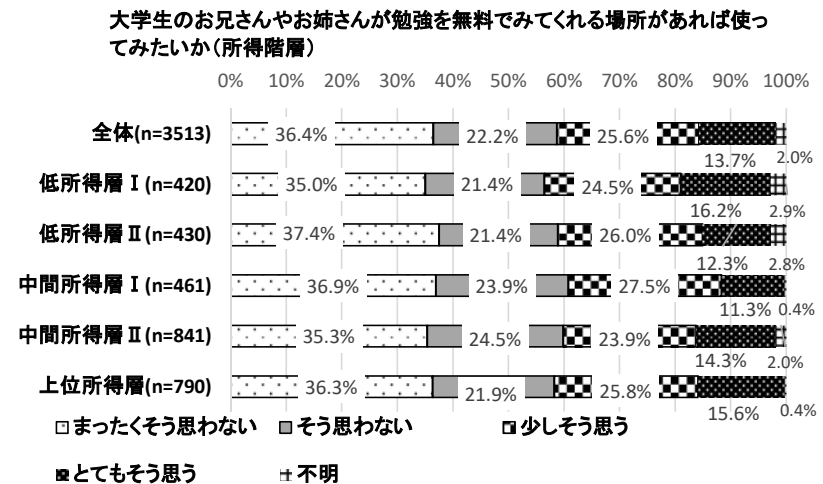
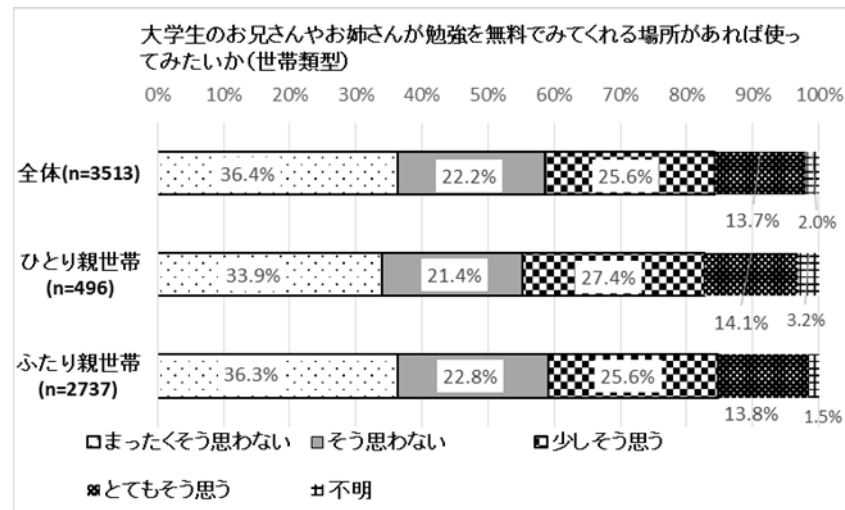
●なお、世帯類型や所得階層ごとにみると大きな差は見られない。



市民アンケート実施結果 概要

使ってみたい場所(大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所) ※ 小5、中2、高2の子どもが回答

- 大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所があれば使ってみたいかという質問に「少しそう思う」「とてもそう思う」と回答した割合は、全体で39.4%と約4割を占めている。
- 一方、世帯類型や所得階層ごとにみると大きな差は見られない。



市民アンケート実施結果 概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響：家計への影響について

※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

●世帯全体では、「世帯収入が減った」21.6%、「世帯の支出が増えた」17.9%、「世帯の貯蓄が減った」13.9%であった。

●「あてはまるものはない」と回答した割合は、所得階層が低くなるほど小さくなり、ひとり親世帯、低所得層ほど、家計への負の影響がより大きいことがうかがえる。

		新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響 ●家計への影響					※複数回答
		世帯収入が減った	世帯の支出が増えた	世帯の貯蓄が減った	あてはまるものはない	不明	
全体(n=7282)		21.6%	17.9%	13.9%	55.3%	2.9%	
世帯類型	ひとり親世帯 (n=805)	27.8%	19.6%	17.3%	46.0%	4.2%	
	ふたり親世帯 (n=6371)	20.8%	17.7%	13.5%	56.8%	2.5%	

		新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響 ●家計への影響					※複数回答
		世帯収入が減った	世帯の支出が増えた	世帯の貯蓄が減った	あてはまるものはない	不明	
全体(n=7282)		21.6%	17.9%	13.9%	55.3%	2.9%	
所得階層	低所得層 Ⅰ (n=842)	38.0%	21.6%	20.5%	37.1%	2.0%	
	低所得層 Ⅱ (n=1040)	32.9%	23.6%	21.9%	39.2%	1.3%	
	中間所得層 Ⅰ (n=1122)	25.0%	19.9%	17.9%	50.8%	1.5%	
	中間所得層 Ⅱ (n=1905)	17.4%	18.6%	12.4%	60.3%	0.8%	
	上位所得層 (n=1672)	9.6%	11.9%	5.3%	75.8%	1.0%	

市民アンケート実施結果 概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響：子どもへの影響について

※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

●世帯類型間で見ると、ひとり親世帯については「学習への支障」、「生活リズムのくずれ」への影響が比較的大きく出ている。一方、ふたり親世帯では、「習い事への支障」への影響が比較的大きく出ている。

低所得層では、「学習への支障」、「生活リズムのくずれ」、「精神的不安定」への影響が比較的大きく出ている。

●影響の出る項目が世帯類型や所得階層の違いにより、やや異なるパターンを示している。

		新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響 ●子どもへの影響								
		学習に支障が でた	習い事などに支 障がでた	遊びや友だちづ きあいに支障が でた	生活リズムがく ずれた	体力が落ちたり、精神的に不安 定になったり、 ふさぎ 込むこと が増えた	ゲームや動画 の視聴時間が 増えた	あてはまるもの はない	不明	
全体(n=7282)		13.0%	23.8%	26.4%	21.9%	9.4%	7.2%	18.1%	32.4%	2.0%
世帯類型	ひとり親世 (n=805)	19.6%	17.9%	24.8%	31.9%	11.8%	8.3%	8.6%	30.9%	3.1%
	ふたり親世帯 (n=6371)	12.1%	24.7%	26.7%	20.6%	9.1%	7.0%	19.3%	32.7%	1.7%
		生活や心身への影響があったか ●お子さんへの影響								
		学習に支障が でた	習い事などに支 障がでた	遊びや友だちづ きあいに支障が でた	生活リズムがく ずれた	体力が落ちたり、精神的に不安 定になったり、 ふさぎ 込むこと が増えた	ゲームや動画 の視聴時間が 増えた	あてはまるもの はない	不明	
全体(n=7282)		13.0%	23.8%	26.4%	21.9%	9.4%	7.2%	18.1%	32.4%	2.0%
所得階層	低所得層 Ⅰ (n=842)	15.7%	17.1%	26.1%	29.6%	11.2%	10.5%	16.5%	30.0%	2.9%
	低所得層 Ⅱ (n=1040)	13.6%	23.2%	26.3%	25.3%	10.8%	7.6%	23.3%	29.5%	0.8%
	中間所得層 Ⅰ (n=1122)	12.2%	23.6%	27.4%	22.0%	9.6%	8.2%	20.8%	30.3%	1.3%
	中間所得層 Ⅱ (n=1905)	12.8%	25.1%	27.2%	20.3%	8.6%	6.9%	19.1%	33.6%	0.7%
	上位所得層 (n=1672)	11.8%	26.8%	25.2%	18.1%	8.8%	5.0%	14.1%	36.0%	0.7%

支援者ヒアリング実施結果 概要

支援者ヒアリングにより聞き取った意見の概要

保護者が抱える課題等	○能力的な問題等により、申請手続きができない ○余裕がない、子どもに手が回らない ○子育てのモデルがない ○どこに相談してよいかわからないなどの理由で、周囲に助けを求めない ○問題は家族で抱え込む傾向が強く、ぎりぎりまで相談しない ○相談することへの抵抗感、行政への不信感がある
子どもが抱える課題等	○学習面での遅れがある ○自宅に集中して勉強することができる場所がない ○基本的な生活習慣が身についていない ○身近にモデルとなる大人がおらず、将来に夢と希望を抱きにくい
世帯が抱える課題等	○母子世帯では、母親が働いている割合が高いものの、収入は低く生活に困窮する例が多い ○保護者の生育環境に問題があり、問題解決ができず貧困が連鎖している ○金銭管理ができず、子どもに必要なお金の確保ができない ○子どもの進学タイミングでお金に困る世帯がある
支援に当たった課題等	○顕在化していないが困難を抱える世帯をつなぐ先がない ○相談することへの心理的ハードルが高い人をキャッチできていない ○学習支援の数が少なく、利用者の選択肢が限定されている ○子ども食堂の数が不足している ○大学進学時の奨学金の枠が狭い
今後必要となる支援	○相談に行くことができない人へのアウトリーチ支援の充実 ○窓口への同行などの寄り添い型の支援 ○自分の家族とは違う大人との交流、家庭ではできない体験機会、居場所づくり ○誰でも利用できる居場所、学習支援の場の充実 ○給付型の奨学金の増 ○社会的養護下にある子どもの自立支援の充実

座談会実施結果 概要

座談会で出された意見

居場所、相談・支援機関を求める意見	○自立して生きていくためにも、孤立しないことが重要。 ○居場所・相談先として機能して、今後の選択肢を与えてくれる場所が必要。若者支援施設は、高卒認定を取得する支援も行ってくれ、今後の人生の選択肢を与えてくれた。 ○小学生から高校生までが安心して勉強やスポーツができて、モデルとなるような大人がいる居場所が必要。 ○不登校、ひきこもり、家庭の問題などをLINEなどで気軽に相談できる仕組みがあるとよい。
経済的な支援を求める意見	○高校の義務教育化。大学・専門学校の学費ももう少し下げてほしい。お金がないという理由で、やりたいことが妨げられない社会になってほしい。
特別な支援を求める意見	○児童養護施設出身者は、奨学金等で学費・生活費は賄えるものの、自動車運転免許の取得や就職時の引越し等の突発的な支出には足りず、アルバイトをする必要がある。また、金銭管理の感覚を身につけるのも難しい。 施設退所後に失敗した人が頼ることのできる、手助けコーナーのような場所があるとよい。